

プラチナ未来人財育成塾

未来のリーダーを育成することを目的として開催されている「プラチナ未来人財育成塾」。毎年各中学校の代表生徒を派遣していますが今年はコロナ禍のため、オンラインで受講しました。参加した生徒の報告書をご紹介します。

参加報告

「将来のために」

泗水中学校2年 大和田未来さん



私は夏休みの4日間、プラチナ未来人財育成塾@オンラインに参加し、各分野を代表される5人の講師の先生方による講義を受けました。

菊池康紀先生の講義では、システム思考を利用した未来について学びました。先生は、これからは考える力がとても必要になってくると話されました。例えば、これまでは買い物の時、レジ袋を使用する機会が多かったのですが、今は多くの家庭でマイバッグを利用しています。皆さんはどちらが環境にやさしいエコな買い物のスタイルだと思いますか。その問いに対し先生は「分らない」と答えるそうです。理由は、レジ袋を使うか、マイバッグを使うかは、消費者の意思決定の影響を受けるからだそうです。レジ袋は買い物のたびに新しいものを使うので使用量が多くなり、脆弱なものを大量に作るようになります。それに対しマイバッグは何度も使用するため、レジ袋よりもしっかりとしたものを少なく作り出す。よってマイバッグを作るときの方がより多くのエネルギーを排出します。つまり、マイバッグを何百回、何千回も使わなければレジ袋を使う時よりも逆にエネルギーが多く排出されてしまい、環境への優しさを考えると何も答えられないということだと思います。私には、これから環境に悪影響を及ぼさない方法を考え、選んで

行つてボランティア活動に参加したい。少しでも何かしたいと思つたけれど、調べてみると小学生は参加できないことが分かり、とても残念に思いました。他に自分に出来ることはないかと考えているとき、コンビニエンスストアや、テレビでぼ金を呼びかけているのを目にしました。これならば私にも出来るのではないかと、学校のお金で呼ぶか、自分のお金で呼ぶか、と迷っていました。また、みんなにうたったえるためには、直接人吉の様子を見て、思いを伝えなければと思つて人吉に行きました。実際に見ると、あちこちにゴミがあり、大きな木が屋根に引っかかったままになっていたり、二週間も経つのにまだまだ復旧が進んでいませんでした。また、広いはん圃でこう水が起り、球磨村や、芦北町でも同じように被害が出ていることを知り、道や家が流され、生活をうばわれ、大切な思い出の物や写真などを失ってしまった人も多かつたと思います。同じ日、私が住む菊池でも大雨こう水の特別警報が出ていました。自分の住んでいる町や家が同じ姿になっていたのかもしれないと思

買つことだと思つています。これらのことに関心を持ち、楽しもうとするのが大事だと思います。今回受けた講義をいかして、環境に配慮した活動をしていきたいと思つています。

宇宙飛行士の山崎直子先生の講義では、主に宇宙に関する話を受けました。宇宙では自給自足を「持続可能な社会」を目指しているそうです。また宇宙船の中では、さまざまな国の人が働きながら、宇宙という厳しい環境の中でも皆、気持ちよく生活することが出来るそうです。私も「持続可能な社会」を意識し周りの人が幸せになるようなことをしていきたいと思つています。

今回、5人の先生の講義を受けたことで、将来について考える良い機会になりました。宇宙飛行士の山崎先生は「純粋な気持ちでやりたいことをやる」とおっしゃられました。私は将来、英語を活かした国際的な仕事に就きたいと思つています。そのためには、勉強だけでなくさまざまな課外活動に参加したり、多くの本を読むなど、今できることから積極的に挑戦していきたいと思つています。4日間の講義を通して、今まで常識と思つてたものが、実はそうではないということも学びました。これからの活動の中で「何が本当か自分で確かめること」を忘れないようにしたいと思います。※一部抜粋

社会を明るくする運動

法務省が主唱する「社会を明るくする運動」。市では啓発事業の一環で、市内の小中高校生を対象に作文を募集しました。広報きくち11~1月号で、各部門の最優秀作文をご紹介します。

小学生の部最優秀作文

私にできるボランティア

菊之池小学校6年 後藤咲貴子さん



7月4日に、熊本県南部で大きな水害がありました。テレビでそのニュースを見てみると、見慣れた町がひどい様子になっていました。私は、小学校に入るまで球磨郡の錦町というところに住んでいて、人吉にもよく家族で買い物に行つたりしていました。お祭りに参加した町、花火を見た橋も草木が引っかかり、泥にうもれていました。私が生まれた病院も一階がしん水して停電してしまっていました。その様子を見て私は、とつてもかなしくなり、なみだが出そうになりました。

しばらくして、母がボランティアに行くことになりました。なぜ参加しようと思ったのか話を聞くと、母は学校の先生をしていて、初めて勤務した学校が人吉にありました。担任した子供の家などがしん水しているのを知り、いてもたつてもいられなくなつたそうです。朝五時に出発して、球磨川沿いの家のボランティアに行つたそうです。その家には、一・二メートルくらいの泥がたまっており、一日中スコップでかき出し、半分くらいしか終わらなかつたそうです。帰ってきた母は、とてもつかれきつてきつそうでした。私も

行つてボランティア活動に参加したい。少しでも何かしたいと思つたけれど、調べてみると小学生は参加できないことが分かり、とても残念に思いました。他に自分に出来ることはないかと考えているとき、コンビニエンスストアや、テレビでぼ金を呼びかけているのを目にしました。これならば私にも出来るのではないかと、学校のお金で呼ぶか、自分のお金で呼ぶか、と迷っていました。また、みんなにうたったえるためには、直接人吉の様子を見て、思いを伝えなければと思つて人吉に行きました。実際に見ると、あちこちにゴミがあり、大きな木が屋根に引っかかったままになっていたり、二週間も経つのにまだまだ復旧が進んでいませんでした。また、広いはん圃でこう水が起り、球磨村や、芦北町でも同じように被害が出ていることを知り、道や家が流され、生活をうばわれ、大切な思い出の物や写真などを失ってしまった人も多かつたと思います。同じ日、私が住む菊池でも大雨こう水の特別警報が出ていました。自分の住んでいる町や家が同じ姿になっていたのかもしれないと思

うと、ひと事ではありませんでした。ぼ金活動を見学で呼びかけようと思つたけど、あと一週間夏休みというところもあり、実することができませんでした。何も出来ないのかな、と残念に思つていると児童会担当の先生から、「ぼ金活動の計画をしましょう。」と言われて、私も人吉のために何かできるんだと思ひ、うれしくなりました。児童会のみんなと協力して、がんばっていききたいと思つています。直接ボランティア活動には参加できないけれど、私にもできる形でボランティアをすることで誰かが少しでも笑顔になれたらうれしいなと思つています。これからも、私にできるボランティアをがんばりたい。



募金活動をする後藤さんたち